

## 学修目標

この教科では、組織学や病理学、細菌学、生化学、生理学、薬理学を担当する教員がそれぞれの専門分野における“炎症に関連する講義”を行う。各分野の講義を聴講しながら、その内容について各自がノートテイキングの演習を行う教科である。トレーニング的に何度も反復することで、理解すべき知識をノートテイキングによって自ら収集し、整理・体系化できるように“技法(わざ)”を身につけるのが目的である。

- 教科書：指定しない。本教科の趣旨にもとづいて、プリント配付も最小限に留める。
- 参考書：指定しない。更なる学習のために担当者が授業時に紹介することがある。
- 授業時間：木曜日 15:00～16:50 合計 15 回
- オフィスアワー：磯川桂太郎 月曜日 12:00～13:00  
小林 真之 木曜日 17:00～19:00  
鈴木 直人 月-金曜日 12:00～13:00  
今井 健一 金曜日 17:00～18:00  
坪井 美行 水曜日 17:00～18:00  
浅野 正岳 月曜日 17:00～18:00
- 成績評価：定期試験は行わない。提出物を基礎データとして、成績評価表示 S, A, B, C による相対評価を行う。
- 注意事項：
  - ・この演習では学年番号順の座席指定(別途通知)を行う。
  - ・この授業中は、配付された所定の用紙と筆記具のみ使用可。録音/撮影、書籍/電子辞書や電子デバイス等は特に許可のない場合は使用禁止。
- 準備学習：演習の趣旨に照らし準備学習は不要だが、授業時間中は“ひたすら書く”こと。

授業日	演習項目	担当者
<p>[スキルアップ]</p> <p>この演習ではスキルアップ・トレーニングを都合6セット実施するが、その各々は、原則として次のような手順で進められ、2週で2件の提出物 <b>CKG</b> が生じる(6セットでは合計12件)。</p> <p>[第1週]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 担当者による“教材としての講義” (50分前後)</li> <li>② 学生は、配付される所定のノートテイク用紙 [CKG-1] に聴講内容を記録</li> <li>③ 聴講後、取ったノートを学生間で交換し、記載内容について互いにチェックし、改良点を列挙</li> <li>④ 学生によるアドバイスを元に、自分で改良点を記載</li> <li>⑤ 担当者は、<b>CKG-1</b> を回収して次週までに精査</li> </ol> <p>[第2週]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑥ 第1週に提出されたノートの中で参考となるもの(Selected <b>CKG-1</b>)を、学生全員に電子配信</li> <li>⑦ 学生が取ったノート <b>CKG-1</b> を返却。精査した結果については担当者が学生に総合講評</li> </ol>		

- ⑧ 学生は、Selected CKG-1をもとに、課題(テスト)に取り組んで解答 [CKG-2]  
 ⑨ 担当者は、第2週の CKG-2 を回収して後日採点

**[講演聴講]**

この演習では講演の聴講を2度実施するが、その各々は、原則として次のような手順で進められ、1講演につき、「学生が取ったノート、聴講サマリー」という2件の提出物、すなわち CKG-3, 4が生じる(2講演で合計4件)。

- ① 講演内容をノートテイク [CKG-3]  
 ② 学生と演者での質疑応答  
 ③ 学生は、講演内容について聴講サマリー [CKG-4]をまとめる(40分前後)。  
 ④ 担当者(&演者)は、CKG-3 と CKG-4 を回収して後日採点

授業日	演習カテゴリ		教材講義のテーマ(仮題 H28.1 現在)	担当者
4月 7日	ガイダンス		本講のシステムとねらい	小林真之
4月14日	I	第1週	炎症に関わる細胞とその位置づけ	磯川桂太郎
4月21日		第2週		
4月28日	II	第1週	ケミカルメディエーター	鈴木直人
5月12日		第2週		
5月19日	III	第1週	炎症の形態学的分類とその特徴	浅野正岳
5月26日		第2週		
6月 2日	IV	第1週	歯周炎の発症と微生物	今井健一
6月 9日		第2週		
6月16日	V	第1週	痛みの発生機構と炎症	坪井美行
6月23日		第2週		
6月30日	VI	第1週	抗炎症薬	小林真之
7月 7日		第2週		
7月14日	講演聴講 VII		講演テーマ： 歯髄炎と根尖性歯周炎の病因と治療	日本大学歯学部 武市 収
7月21日	講演聴講 VIII		講演テーマ： 脳内炎症の PET イメージング	理化学研究所 崔 翼龍